

## 1 はじめに

愛知県建設業協会は、建設業を経済的、技術的及び社会的に向上させ、建設業の健全な発展を図り、併せて公共の福祉の増進に寄与することを目的とした団体で、建設業の振興に向けた取り組みのほか、地域の防災体制の強化を図り、地球環境と共生する建設業を目指した活動を行っています。

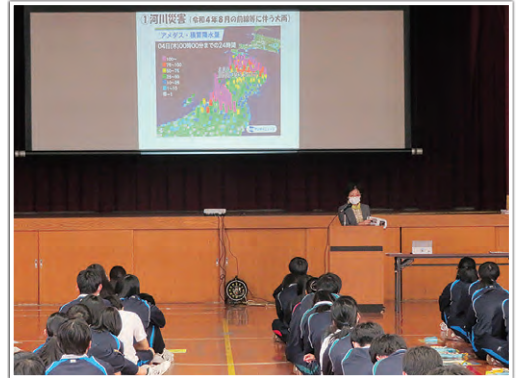
また、国土交通省中部地方整備局、愛知県等の行政機関と災害支援に関する協定を締結し、災害発生の際は社会基盤施設等の復旧への協力体制を構築しています。さらに「建設業だからできること」として、台風や頻発する局地的な豪雨等の災害による浸水に悩まされている学校施設等の公共施設へ、建物等への浸水を防止するための土のうを製作して提供することを社会貢献の一環として実施しています。

## 2 取り組みの内容

愛知県内の高等学校、特別支援学校における防災授業として、生徒たちに土のうづくりを体験してもらっています。授業時間は約90分で、毎回100人程度から300人程度の生徒が参加しています。

### (1) 愛知県職員による出前講座

はじめに、出前講座として学校の体育館等で愛知県職員がパワーポイントを使って防災に関する講義を行い、生徒たちは風水害や地震・津波災害の基礎や自分たちの住む地域の災害リスクについて学習します。



愛知県職員による出前講座

### (2) 土のうづくり体験

その後、生徒たちはグラウンドに移動し実際に土のうづくりを体験します。

土のうづくりでは、生徒たちは4班程度のグループに分かれ、各グループはグラウンドに敷いたブルーシートの上にある砂山の前に並びます。

次に、協会の災害対策委員が土のうの作り方や運び方、積み方について説明用パネルを掲げながら実践してやり方を説明します。説明後、災害対策委員や学校の先生が生徒たちに怪我がないよう見守る中、生徒たちは各グループ内で2人1組になりスコップを使ってブルーシート上の砂山から砂をすくって土のう袋の中に丁寧に入れます。砂がいっぱいになったら、土のう袋の口をひもで縛ります。初めてのことで、上手に縛れない生徒もいますが、災害対策委員が見本を見せて生徒たちに教えます。出来上がった土のう袋は数個をリヤカー、二輪車、ブルーシートと物干し竿を活用した自作の簡易担架に載せて、学校の



協会の災害対策委員による  
土のうのつくり方の説明



土のう袋の中に丁寧に



リヤカーで運びました



自作の簡易担架で土のうを運びました



積み上がった土のうを保管しました

敷地内に設けた土のう保管場所まで運びます。土のう保管場所でも、重い土のう袋を生徒たちが上手に積み上げられるよう災害対策委員が誘導します。土のう袋を数段積み重ねた後、最後にUVカットシートで覆いロープで固定します。また、土のう保管場所には土のうがあることがすぐに分かるように看板を設置します。

最後に、校長先生、協会の災害対策委員長による講評を行い、頑張った生徒たちを労うとともに、災害時にはこの体験を活かしてほしいなどと話し、生徒たちからは災害対策委員の方々にお礼の挨拶をします。

保管した土のうについては、非常時の備蓄財として、また、近隣の住民の方の災害時にも使用されます。

当日、製作、運搬に使用したスコップやリヤカー等の道具等は、協会から災害用に学校へ寄贈します。

### 3 取り組みの成果・今後に向けて

平成24年度から開始し、令和4年度までの11年間で24校4,900名を超える生徒の参加があり、学校や参加生徒からは、貴重な体験で身近な防災対策を考える良い機会となったと好評をいただいています。

知識を学ぶだけでなく、生徒たちが協力し実際に体験することで、防災意識も大きく変わったのではないかと思います。

土のうづくり授業について、毎年、愛知県教育委員会を通じて応募していただきますが、非常に関心が高く、是非当校で実施してほしいという声も聞かれます。

次代を担う若い人たちに防災意識を高めてもらうため、この活動を続けていきたいと思っています。

紹介した取り組みは、愛知県建設業協会ホームページで公開しています。

[http://www.aikenkyo.or.jp/l3donou\\_movie/index.html](http://www.aikenkyo.or.jp/l3donou_movie/index.html)